

(二) アンケートの結果より

国語を「好き」と答えている生徒が半数くらいいたが、「嫌い」と答えた生徒も多かった。「嫌い」と答えた生徒の多くは、「文章を読むこと、漢字を書くことが面倒である」という理由を挙げている。更にそうした生徒たちは、「国語」に対しても、「ややこしい」「難しい」「面倒」というイメージを持っており、特に「漢字」に対しては、半数以上の生徒が苦手意識を持っている。

基礎学力をつけていくためには、「漢字」に対する苦手意識をはじめ、「国語」に対するマイナスのイメージを少しずつ払拭していくことが必要である。

普段の生徒たちの学習の様子は、「自分達が到達すべきところ」が目に見えているとき、「わかる」という感覚を味わえるときには、特に積極的に取り組んでいると言える。

授業を進めていく上での課題として、「目的を明確にすること」、「わかる」という実感を味わわせること、「やったという達成感を感じさせること」が必要であると考えられるので、これらのことを授業の中に取り入れながら進めていきたい。

(三) 研究仮説の設定

漢字や語句に対する興味や関心を持たせる

漢字や語句に対する興味や関心を持たせることができれば、自ら学び知ろうとする積極的な姿勢が見られるようになり、言語に関する知識が深まるのではないかと。

文章を読むことへの興味や関心を持たせる

言語に関する知識がついたら、それらをいかすことで、小説などの文章を読み、内容を理解する際の難度がやわらぎ、文章を読むことへの興味や関心を深めることができるのではないかと。

「基礎学力」としての「読む能力」を高める

漢字や語句に関する知識や、文章を読むことへの興味や関心に加え、内容に応じて自らの考えを「書く」ことで、「基礎学力」としての「読む能力」は更に深まるのではないかと。

これらすべてにおいて必要となるのが、授業に対する興味と関心であると考える。そのため、生徒たちを授業に向かわせる工夫に特に重きをおいてみたいと考えた。その一つの方法として行なったのが、それぞれの教材に応じた、傍線を付す作業である。

三 授業計画

(一) 対象生徒(授業担当生徒数)

平成十八年度	海洋科	一学年	名	組	名
平成十九年度	海洋科	一学年	名	組	名

(二) 授業形態

「国語総合」は一学年三単位、二学年二単位で実施している。

授業は、少人数制をとって実施しており、一クラスを出席番号順に二分割している。平成十八年度は、一学年二クラス五十五名のうち一クラス二十八名を担当した。残りの一クラスは他の教諭が担当した。授業では二十八名をさらに分割するため、教室に集まる生徒数は十四名である。平成十九年度では一学年四十八名二クラス全員を担当した。一クラス二十四名をさらに二分割するため、十二人を対象に授業を実施する。少人数のため、生徒一人ひとりの表情にまで目が行き届き、授業の反省もしやすい状況にある。

(三) 到達目標

- 漢字に親しみをもち、漢字一字ずつに意味があることを確認し、文章にでてきた熟語の意味を考えられるようになる。
- 文章を読む上で、接続詞に注意し、筆者の主張を読みとれるようになる。
- 小説を読む上で、その場面を脳裏に描けるようになる。
- 登場人物の行動や心情を読み取り、心情を豊かにするために「自分だったらどうだろうか」と考えられるようになる。
- 小説を読み、自分の考えを持ち、文章に書き表わせるようになる。
- 小説や読書に対する興味を持つ。

(四) 授業計画

平成19年度			平成18年度			実施時期	教材	到達目標	学習活動	全体の位置づけ	評価の観点			
九月 (9時間)	七月 (6時間)	六月 (3時間)	一月～二月 (12時間)	十二月 (4時間)	九月 (6時間)									
「星の王子さま」 サン・テグジュペリ 内藤 濯 訳	「学ぶことと思うこと」 加藤 周一	「馬と犬のこと」 伊曾保物語	「羅生門」 芥川龍之介	「日本の渚」 加藤 真	「漢字の性格」 金田一春彦			<ul style="list-style-type: none"> 漢字や語句に対する興味と関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 万葉仮名で手紙を書く。 漢字のイメージを考える。 熟語をつくる。 					
<ul style="list-style-type: none"> 小説を読み味わい、一つひとつの言葉に込められた意味を考え、文章にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 接続詞に注意し、筆者の主張を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 主語を考え、内容を理解するとともに、自分の意見をまとめ、文章にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の行動と心情を読み取り、「自分ならどうするか」という考えを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の主張に傍線を付す。 接続詞を線で囲む。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字のイメージを考える。 熟語をつくる。 			<ul style="list-style-type: none"> 漢字・語句への興味・関心 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の主張に傍線を付す。 接続詞を線で囲む。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の行動、心情の記述を、色や線種の異なる傍線を付して整理する。 もし自分だったら」という視点で考えを場面ごとにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 動作の主ごとに色や線種の異なる傍線を付し、内容を理解する。 作品全体の意見を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面ごとに傍線を付し、細部に注意して読む。 プリントに従い、自分の意見を書く。 		
								<ul style="list-style-type: none"> 漢字・語句への興味・関心 	<ul style="list-style-type: none"> 接続詞に注意し、論旨を整理 筆者の主張を読み取る〔1〕 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の行動・心情を読み取る 場面ごとに考えを書く 1 	<ul style="list-style-type: none"> 接続詞に注意し、論旨を整理 筆者の主張を読み取る〔2〕 	<ul style="list-style-type: none"> 小説を読み味わう 場面ごとに考えを書く 2 		
								<ul style="list-style-type: none"> 関心・意欲・態度 知識・理解 	<ul style="list-style-type: none"> 読む能力 	<ul style="list-style-type: none"> 関心・意欲・態度 知識・理解 	<ul style="list-style-type: none"> 関心・意欲・態度 知識・理解 	<ul style="list-style-type: none"> 関心・意欲・態度 知識・理解 		

評価について・・・「授業中及び授業後」に「机間指導による観察評価」と「プリント等による評価」を「授業者」が行う。「プリント等による評価」はA～Fの段階評価とする。評価規準については次ページを参照。

(五) 考察と課題

漢字に対する親しみが持てましたか？		
持てた	46%	少し持てた
持てた	86%	持てない
思った	86%	思わない
		14%
		18%

実施前に行ったアンケートの際には、「漢字を好き」と答えた生徒が41%であった。実施後のアンケートにおいては、漢字に対して「親しみが持てた」「便利さを感じた」と答えた生徒が80%を越えていることがわかる。一方で、アンケートに書かれている文字にはひらがなが多く、漢字を進んで使っていくためには、工夫と時間が必要であると感じた。この実践により、生徒たちの漢字に対するイメージを好転させることができたのではないかと思われる。そしてその結果、文章を読むことへの抵抗感も減ずることができたのではないかと考えている。

実践 授業の2 身近な題材の活用を促す

(一) 目標

熟語から語句の意味を考える。
接続詞に注意し、筆者の意見を読み取る。

- (二) 対象 平成十八年度 海洋科 一年組 名
- 教材 「日本の渚」加藤 真
- 教科書 「新編 国語総合」大修館書店

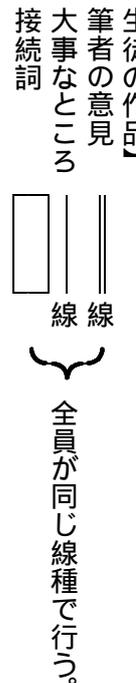
(三) 学習活動

教科書の本文とノートが一体となったプリントに取り組む。
形式段落に分け、段落ごとに読み進めていく。筆者の主張が書かれているところと、接続詞をさがし、皆で確認をした後、それぞれのプリントに傍線を付していく。
を用いて論旨をまとめる。

(四) 生徒の取り組み【資料3 参照】

筆者の意見や接続詞をさがし、傍線を付していく作業に積極的に取り組む姿が見られた。まだ接続詞と指示語の区別の付かない生徒が多く見られたが、授業が進むに従い、自ら該当箇所をさがし、論旨をまとめていくこともできるようになってきた。

また、漢字一文字ずつの意味やイメージから熟語の意味を考えようとする姿勢も見えはじめた。例えば、「連環」という語では、「連」が連なる、「環」は循環の環であるから、「つながり」という意味である、という具合である。更に、熟語ではない「うたい文句」などでは、文章から他の語に置き換えて意味を考えさせるようにしたが、積極的に考えようとする姿勢が見られた。

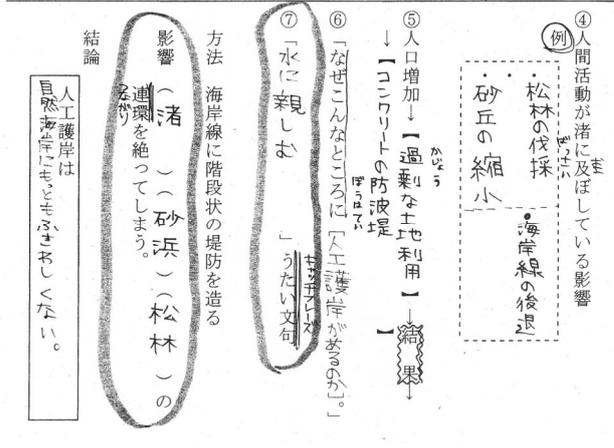


④このように白砂青松の渚には、人間活動のさまざまな影響が及び寄っている。松林の伐採、砂丘の縮小、海岸線の人工護岸化、海岸線の後退、海の汚染や富栄養化などだ。

⑤人口の増加にともなう、過剰な土地利用を追求してきた結果、人の居住地や耕作地は渚のすぐ近くまで迫ってきた。そのため、防災の名のもとに、海岸線は松林や砂丘にかわって、コンクリートの防波堤で固められていったのである。

⑥人の居住地から遠く離れた自然海岸にも、「なぜこの人などこに」と思われるような人工護岸が造られていることも少なくない。美しい渚は人工護岸一つでその価値をいじめるしく損なわれる。

⑦最近、「水に親しむ」といううたい文句で、海岸線に階段状の堤防を造ることがはやっていく。松林や砂丘をつぶして造る堤防は、人と人が座って海を眺められるように階段状になっていくとして、けつし渚にやさしくはな。渚と砂丘と松林は大きな生態系の連環の中にある。松林は渚へ栄養分に富んだ地下水を供給し、波は渚と砂丘へ砂を供給し、また多くの寄りものをもたらす。渚と砂丘と松林は帯状に連なり、それらの間を移動する多くの生物をはぐくんではいる。そのような生態系の連環を絶つてしまふ人工護岸は、自然海岸にもつともふさわしくないものだ。



(五) 評価

プリントによる評価。(A～Fの段階評価)
B以下の評価のものには、次時に復習の時間を設けた。
机間指導による観察評価。

(六) 次の単元への発展

漢字一字一字に意味があることを前回の単元で学び、熟語に関して、意味を考えていくことに取り組んできた。更にこの単元においては、接続詞に注目し、傍線を付すことで筆者の主張を他の記述と読み分けていくことに取り組んできた。この学習活動により、生徒たちは文章を読むで「内容がわかった」という感覚を味わうことができたと考えられる。
次の実践では、文学的文章の読解に挑戦する。実践の方法を踏襲するが、今度は登場人物の行動や心情に傍線を付し、各場面を脳裏に描けるようにする。

また、一連の学習活動に加えて、場面ごとに自らの考えをまとめることで、「読む能力」を一層高めることもねらいとする。

実践 小説 長編小説を読む

(一) 目標

熟語から語句の意味を考える。
登場人物の動きや心情を考える。
登場人物と自分を重ね合わせて考えられるようにする。

(二) 対象 平成十八年度 海洋科 一年組 名

教材 「羅生門」芥川龍之介
教科書 「新編 国語総合」大修館書店

(三) 授業前のアンケート

「羅生門」を読んだことがありますか?
ある 12% ない 88%

芥川龍之介を知っていますか?

知っている 62% 知らない 38%

長めの小説を読んだことがありますか?

ある 48% ない 52%

読書は好きですか?

好き 40% 嫌い 16% その他 44%

その他は「どちらでもない」「マンガは読む」「最近読んだ本がありますか?」
読んでいない 73% (無回答も含む)

(四) 学習活動

- 1 教科書の本文とノートが一体となったプリントに取り組む。
プリントは順次配布し、最終的に一冊の「羅生門ノート」を完成させる。
- 2 「下人」「老婆」それぞれの行動と心情に付ける印を決める。
- 3 登場人物の行動や心情について、「自分だったらどうするか」をプリントに従い、考えていく。

活字離れが心配される中、本校の生徒たちも例外ではない。教科書の本文が長いだけで閉口している姿も見られる。文字がたくさん羅列されているのを目にすることで「面倒だ」という意識がわくようである。
『羅生門』は生徒たちにとっては長い小説である。生徒たちが場面を脳裏に描き、飽きることなく内容理解に取り組める方法を模索した。そして、「下人」「老婆」それぞれの心情と行動を色分けすることを考え、実践してみた。色をつける作業には興味を持てるのではないかと考えたためである。過去二度の取り組みは以下のような方法で実践した。
一度目の実践では、プリントの上位に本文を載せ、下段に内容をまとめる形式とした。今回の実践に近い形であり、プリント上位の本文に「老婆」「下人」それぞれの線を付した後、下段のまとめに取り組んだ。方法がわかってくるに従い、積極的に考える姿勢が見られた。しかし、漢字の学習を十分行えなかったことが課題として残った。
二度目はノート学習で行った。傍線を付す作業を取り入れるにあたり、教科書に線を引くことに抵抗感を持つ生徒も見られたため、教科書の本

文を上質紙に印刷して冊子をつくり、作業をさせた。作業の丁寧な生徒が多く、特に女子生徒は、登場人物ごとに、きれいに色分けされた冊子をつくりあげていた。漢字学習をプリントで行うことにより、前年の課題は消化できた。しかし、登場人物の動作や心情に対する生徒自身の考えを持たせることが、次の課題として新たにでてきた。

今回の実践では、実践 で行なってきたことを更に発展させ、下人や老婆の行動や心情に対し「自分だったらどうだろうか」と考えさせることを目標とした。そして内容理解、漢字、自らの考えを、一冊のノートとして完成させたいと考えた。【資料4 参照】

まず、各自で好きな色のペンを四色用意させ、「下人の行動」「下人の心情」「老婆の行動」「老婆の心情」の線種と色を決めさせた。該当箇所を授業者が読み、何の線を引いたらよいかを発言させ、確認をした後、それぞれのプリントに各自で自分の決めた線を引いていく形をとった。

また『羅生門』を読んでいる生徒がほとんどいなかったため、一度に全文を読むことはせず、プリントにより少しずつ読み進めることとした。過去の実践においてこの形式で行なったところ、次の場面を楽しむに
する発言が聞かれたからである。

【資料4 生徒の作品】

(五) 評価

プリントによる評価。(A～Fの段階評価)
B以下の評価のものには、次時に復習の時間を設けた。
机間指導による観察評価。

(六) 考察と課題

線を引き、登場人物の行動や心情が読み取りやすくなりましたか?	読み取りやすい 72%	読み取りにくい 12%	変わらない 16%
下人の気持ちになって考えられましたか?	考えられた 20%	少し考えられた 64%	読んだだけ 16%
小説を読むのは面白いと思えましたか?	芥川他の小説を読みたい 8%	他の作者の小説を読みたい 16%	簡単に読める小説を読みたい 36%
	字を読むのは面倒だ 8%	全く興味はない 24%	

傍線を付す作業も二度目となり、慣れてきた反面、飽きている生徒の様子も見られた。一方で傍線を付す作業を通し、「登場人物の行動や心情が読み取りやすくなった」という生徒が7割以上いた。授業の最初では、該当箇所を授業者が読み、何の線を引いたらよいかを考えさせていた。しかし、授業が進むにつれて、何の線を引いていくかを積極的に発言する生徒が増えていった。

更に、熟語から意味を考えることにも慣れてきており、漢字一字一字の意味やイメージから言葉の意味を考えることもできた。また、登場人物の気持ちを考えるため、「自分だったら」という欄をプリントに入れたところ、生徒たちも、よく考え取り組んでいた。【資料5 参照】

今回の実践では、線種を各自で決めさせたため、決めた線の種類が途中でわからなくなっている生徒が多く、全員が同じ線種で行う方がわかりやすかったのではないかと反省させられた。しかし、前回よりも、線の引き方が丁寧になっていく生徒が多く見られた。

また、傍線を付す作業を用い、プリント下段の各場面のまとめに主体的に取り組ませることも重要なねらいであった。しかし、作業を終えることで満足している生徒も多く、次の実践での具体的な課題となった。授業の最後には、本文、まとめ、資料、漢字など様々な要素の詰まっ

た一冊の「羅生門ノート」を完成させることができた。生徒たちも充実感と達成感を感じることができたのではないかと考えている。

【資料5】～生徒の考えより(生徒作品の一部)～

飢え死にをするか盗人になるか迫られたら?

ア、迷わず「飢え死に」 20%

理由 ・自分が死にそうだからといって人の物をとってはだめ

・盗人になるのは難しい ・正義を貫く

イ、迷わず「盗人」 70%

理由 ・どうしようもない ・自分が生きるのが一番

ウ、迷った末に「飢え死に」 0%

エ、迷った末に「盗人」 10%

理由 ・望みや大切な物がなければ、迷わず「飢え死に」を選ぶけれど、生きたいと思ったら最後には「盗人」を選ぶ

下人の行動には賛成ですか、反対ですか。またその理由は?

ア、賛成 58% ・生きるためにはしょうがない

飢え死にはいや

42% ・やっつけていいこと悪いことがある
生きている人にそんなことをするのはよくない



実践 古文 現代文における実践の応用として

(一) 目標

古文に楽しく取り組む。

動作の主とその気持ちを考え、文章で表現する。

(二) 対象 平成十九年度 海洋科 一年組 名

教材 「馬と犬のこと」伊曾保物語

教科書 「新国語総合 改訂版」教育出版

(三) 学習活動

- 1 本文と、助詞を空欄とした口語訳が記され、動作の主体を考えるべきところに破線のついているプリントに取り組む。
- 2 情景を脳裏に描きながら、動作の主ことに決めた線を付けていく。
- 3 登場する動物、人物の行動をどう思うかを短い文章にする。

古文では主語がわからないと、文意を理解することができない。これまで行なってきた傍線を付すことで文章を理解することを、古文でも実施した。また、「自分だったらどうするか」をあらゆる場面で考え、短い文章に表すことに発展させたいと考えた。【資料6 参照】
更に、熟語から意味を考えることを古文においても実施した。

(四) 生徒の取り組み【資料6 生徒の作品の一部】

(五) 評価

プリントによる評価。(A～Fの段階評価)
B以下の評価のものには、次時に復習の時間を設けたが、ほとんどの生徒がA評価であった。
机間指導による観察評価。

(六) 考察と課題

話の内容はわかりましたか？	88%	少しわかった	12%	わからなかった	0%
線をつけることで内容はわかりやすくなりましたか？	88%	きたなくなりました	10%	変わらない	9%
線をつけることで考えることができましたか？	88%	できなかった	12%		
線をつけることで集中することができましたか？	83%	大変だった	17%		
結論には賛成できましたか？	88%	できなかった	12%		

「古文」と聞いただけで嫌悪感を示す生徒は毎年多い。今回の実践では、「古文の楽しさを伝える」ことを目標の一つとして実施してきた。平易な古文だったこともあり、情景を描きやすかったようである。話の内容も全員が理解できている。
「古文」ということをあまり意識せずに楽しく取り組んでおり、「現代文」の時間以上の豊かな発想で、積極的に意見や感想を述べる生徒たちの姿が見られ、想像力の豊かさに感心させられた。「古文」も楽しいものであることが多少は伝わったのではないかと感じられた。他の古文作品においても、いかに楽しさを伝えていくかが次の課題である。
結論に対する考えも簡単にはあつたが、文章として書けていた。一方で、アンケート「線を付けてきたなくなつた」、「考えることができなかつた」、「集中できなかつた」と答えた生徒たちには、考えやすい質問を投げかけるなど、工夫が必要であると考えさせられた。
しかし、「現代文」における一連の工夫は、古文においても有効であることがわかつた。

実践 小説 読取小説を讀む

(一) 目標

接続詞に注意し、筆者の主張を読み取る。

(二) 対象 平成十九年度 海洋科 一年組 名

教材 「学ぶことと思うこと」 加藤周一
教科書 「新国語総合 改訂版」 教育出版

(三) 学習活動

- 1 教科書に形式段落の数字をつける。
- 2 形式段落ごとに読み進め、筆者の意見に傍線を付け、接続詞を四角で囲む作業を教科書に施していく。

(四) 課題と考察

実践 で扱った評論が身近な話題について論じられた比較的平易なものであったのに対し、今回扱った評論は、内容を読み取るにあたって、深い思考力を必要とする難易度の高いものであった。そのため、この実践では、接続詞に注意させるとともに、特に筆者の主張に傍線を付し、論旨を読み取っていくことをねらいとした。

形式段落ごとに出てくる接続詞の数を指摘し、さがさせたところ、積極的に見つけ、先を争って発言してくれる姿が見られた。また接続詞と指示語の区別がつけられない生徒も見られたが、誤った発言がある度に説明を繰り返して、定着を図った。

そして、授業も後半になると、「だから」の後には、前の文の原因や理由が書かれていること、「つまり」の後には筆者の主張がまとめられていることなどに気づく生徒が見られ、接続詞に注意しながら、筆者の主張が書かれている箇所をさがすことができる生徒も見えはじめた。

線は教科書に付し、まとめをノートで行ったので、両者の関連を明確にできなかった。一連の作業を関連づけて進めることが次の課題である。

(五) 評価

ノートによる評価。(A～Fの段階評価)
B以下の評価のものには、次時に復習の時間を設けた。
机間指導による観察評価。

実践 小説 讀取小説を讀む

(一) 目標

一つひとつの言葉に込められた意味を考え、小説を味わう。
自分なりの考えを持ち、文章で表現する。

(二) 対象 平成十九年度 海洋科 一年組 名

教材 「星の王子さま」 サン・テグジュペリ(内藤 濯 訳)
教科書 「新国語総合 改訂版」 教育出版

(三) 学習活動

- 1 教科書の本文とノートが一体となったプリントに取り組む。
プリントは順次配布し、最終的に一冊の「星の王子さまノート」を完成させる。
- 2 大切な言葉について、奥深くに込められた意味を考えられるプリントに従い、考えたことを文章に書き表わす。

実践 で扱った『羅生門』で、線種が途中で不明確になってしまった反省から、今回は各プリントごとに線種を明示し、作業を行わせた。この單元では、傍線を付す作業を通し、生徒自らが小説を面白いと感じ、味わってくれることを目標とした。したがって、「書くこと」に関しても『羅生門』とは異なる試みを行ってみた。

『羅生門』では、読みを深めるために「自分だったらどうか」という視点で自分の意見をまとめてきたが、今回の実践では「考えよう」という欄を設け、本文の主旨につながる言葉について、賛成・反対の立場から内容に即して、それぞれの意見をまとめさせることを主として展開し

ていった。

傍線を付した箇所を、プリント下段のまとめにいかしていくことも、この単元においては、できている生徒が見られるようになった。指示をしたわけではなかったが、生徒作品に見られるように、自主的に傍線の横に、1〜7の数字をつけてまとめている生徒も数人おり、少しずつ自分なりの工夫もできるようになってきたと言える。【資料7 参照】

また、「考えよう」の欄では、多くの生徒が、内容に即してそれぞれの考えを書くことができた。【資料8 参照】
文章を読むことを「難しい」「面倒だ」と感じていた生徒たちが、一連の学習活動を通じて、文章を読み取るだけでなく、自らの意見を持つるまでになったことは、生徒の「読む能力」が向上した表われの一つであると言えるだろう。

(四) 生徒の取り組み【資料7 生徒の作品】

「あなたたちは美しいけど、ただ咲いているだけなんだね。あなたたちのためには、死ぬ気になんかなれないよ。そりゃ、ぼくのバラの花も、なんでもなく、そばを通つてゆく人が見たら、あなたたちとおんなじ花だと思ふかもしれない。だけど、あの一輪の花が、ぼくには、あなたたちみんなよりも、大切なんだ。だって、ぼくが水をかけた花なんだからね。覆いガラスもかけてやったんだからね。衝立で、風に当たらないようにしてやったんだからね。毛虫を一二つ、三つは蝶になるように殺さずにおいたけどー殺してやった花なんだからね。不平も聞いてやったし、自慢話も聞いてやったし、黙っているならいるで、時には、どうしたのだろうと、聞き耳を立ててやった花なんだからね。ぼくのものになった花なんだからね。」
バラの花たちにこう言つて、王子さまは、キツネのとこへ戻ってきました。

印をつけよう
王子さまがバラにしてあげたこと
王子さまがバラにしてあげたこと
①木をかけた
②覆いガラスもかけた
③衝立て風にならぬようにした
④毛虫を一二つ、三つは蝶になるように殺してやった
⑤不平も聞いた
⑥自慢話も聞いた
⑦聞き耳を立てた
「ぼくのものになった花」
「考えよう」が結ばれるのはどんな時でしょうか。
友達以上の関係に近づけた時

(五) 評価

プリントによる評価。(A〜Fの段階評価)
B以下の評価のものには、次時に復習の時間を設けた。
机間指導による観察評価

【資料8】〜生徒の考えより(生徒作品の一部)〜

次の言葉についてどう考えますか?
「大切なことは目に見えない」
【なるほど】
・ 親切な気持ち、性格や優しさなどは目に見えるものではない。
・ 目に見えるものはすぐに手に入ってしまう。
・ 愛など目に見えないことの方が大切なこともたくさんあると思う。
・ 大切なことは形として見えるものではなく、心の中にあると思う。
・ 大切なことは心で考えなければいけない。
【そんなことはない】
・ 大切なことをする行動は、目でも見える。

「面倒見た相手には、いつまでも責任がある」

- 【なるほど】
- ・例えば、捨て猫などは悲しそう。
 - ・一つ一つに責任があると思う。やったからには最後までやり通す。
 - 【そんなことはない】
 - ・いつまでも面倒を見てもらうのではなく、自分でできるようになる。
 - ・面倒を見たからといって、いつかは独り立ちさせなくてはいけない。

(六) 考察と課題

教科書掲載部分をすべて終えたとき、全20ページの「星の王子さまノート」が完成した。今まで学習してきたことが、目に見える形として仕上がった冊子を手にし、達成感を得た生徒も多かったようである。また、同類の作業を異なる単元で繰り返し行うことで、生徒自身が各自で目的意識を持って作業に取り組めるようになることがわかった。「考えよう」という形で、自分の考えを短い文章で表現することを行なってきた。そして最後のまとめとして、感想を百字で書かせたが、まとまった文章を書くことは行なってこなかったため、苦戦している生徒が多かった。「長い文章で自分の考えを書く」ことを次の課題としたい。小説を読む楽しさは、『羅生門』の実践では、十分伝えることができなかったが、この単元実施後に、読書に興味を持ってくれた生徒が多くなっていったことは、嬉しい結果であった。

冊子になった作業の後ろを見てどう思いましたか？

よく頑張った 27% きれいに書けた 14% もっときれいに書けば良かった 55%

「いついつの言葉について考えられましたか？」

考えられた 30% 少し考えられた 52% ただ読んだだけ 17%

読書について

【実施前】

これから読んでみたい本がありますか？ ある 28% ない 72%

【実施後】

読書について思うところを教えてください。

「星の王子さま」を全部読んでみたい 29% 他の小説を読んでみたい 47%

字を読むのは面倒だ 11% まったく興味はない 13%

五 まとめ

「基礎学力」の定着を目指し、「漢字や語句に対する興味を持つ」こと、傍線を付す作業を通して評論における「筆者の主張を読み取る」こと、更に、小説においては「場面を読み取り自分の考えを持ち、それを文章に書き表わす」ことを行なってきた。またその際、「生徒たちの目を授業に向けさせるにはどうしたらよいか」ということに重点を置いてきた。

これらの実践を通して生徒たちに、文章を読み、自分の考えを持つという姿勢が少しずつ身につけてきた。それは、文章の内容や登場人物についての感想が折に触れて出てくるようになったことから感じられる。更に実践後、読書に対する興味や関心を持つ生徒が多く見られるようになったことは、特に興味深い結果であった。本校国語科が目標とする「基礎学力の定着」に向けて有効な実践ができたと思う。

今後とも生徒たちの発想を大切に、ともに考え悩みながら授業に取り組んでいきたい。そして、国語の授業を「基礎学力」に結びつけていけるように努力していきたい。

最後になりましたが、この報告書を書くにあたり、ご指導くださいました指導主事の 先生、前指導主事の 先生、教科指導員の 先生、前教科指導員の 先生、教科研究員の先生方に、心よりお礼申し上げます。そして、様々なご助言をくださいました 高校の先生方、資料の提供など、積極的に協力してくれた 高校海洋科の生徒たちに感謝申し上げます。

参考文献

- 『クイズ漢字チャンピオン』（受験研究者）
- 『国語総合』授業の工夫20選 大平浩平（大修館書店）二〇〇三年
- 『国語の基礎学力を育てるー学力保障・言語技術・絶対評価ー』鶴田清司（明治図書）二〇〇三年
- 『基礎学力を確保する授業の激変ワザ』 榎原正和（明治図書）二〇〇四年
- 『15分間を意識した指導』で基礎学力づくり 戸井和彦（明治図書）二〇〇五年

